ことばと発達のサポートルーム「ゆうき」

ゆうきだより

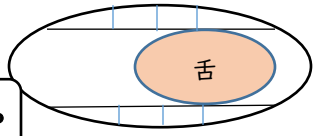
甲府市立善誘館小学校
通級指導教室
2022年8月31日発行

ことばの検査でよく聞く構音障害ってどんなもの？

構音障害とは，同じ発達年齢の人が正しく発音できる音を習慣的に誤って発音している状態を指します。ことばの検査を受けた児童のうち，およそ2割に何らかの構音障害が見つかっており，その中でも発音の間違いが多数を占めています。今回は代表的な音の誤りによる構音障害を紹介します。これらの障害は進度の違いはありますがほとんどの場合，練習によって改善できます。

案ずるより産むがやすし？　実際にやってみよう

舌を左に寄せて「ジ」と「シャ」を言ってみよう！

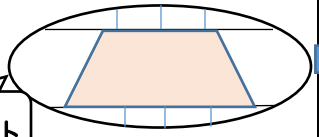


じてんしゃ

側音化構音。よく「歪み（ひずみ）」と言われるものです。
横から息が漏れ
「ぎてんひゃ」っぽくきこえませんか？

息もれもれ･･･

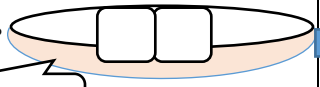
舌を前歯の後ろにつけて［カ］行を言ってみよう！



赤いスカート

症状の通り，置換といわれます。
なんと･･･「赤いスカートが」
「あたいすたーと」に。
［サ］行が［タ］行になることもあります。

上の前歯を唇につけて［サ］行「ツ」を言ってみよう。



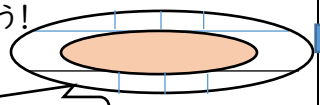
あさのあいさつ

唇歯化構音といいます。

逆にムズイ！

「あふぁのあいふぁぷ！」

前歯で舌をはさんで［ラ］行［リャ］行を言ってみよう！



リュックとランドセル

ひずみ音と置換の場合があります。
「でゅっくとだんどせどぅ」
のように曖昧に･･･。

他にも，鼻咽腔構音，口蓋化構音などの覚え間違えがあります。興味のある方は通級までお問い合わせください。

構音障害あるある（気づくことが第一歩ですが･･･）

① 間違った音が正しい音に聞こえている

【当事者･･･間違った音が脳内で正しい音に変換される】

カ行音→タ行音の置換があり，「ことり」を「ととり」といっていても，本人は全く気づいていないことがあります。これは正しい音を獲得しようとして試行錯誤した結果，誤り音でも脳内で正しい音に変換されて認知されている状態です。

まずは，正しい音と誤り音とを聞き分けられるようになることが日常生活の中でも正しい音を使いこなせるようになるための重要なポイントになります。

【保護者･･･間違った音でも慣れて正しい音のように感じる】

側音化構音のひずみ音や置換でもサ音とシャ音の間の音に聞こえる･･･といった曖昧な発音である場合，その音に聞き慣れてしまうことがあります。この気づけない現象はよくあることで，言語検査でお知らせして，相談を通して初めて我が子の構音障害に気づく保護者もいます。そのような場合でも，教育相談や我が子の練習を介して，微妙な発音の違いが分かるようになります。そして兄弟のことばも同じ癖があることに気がついて相談にいらっしゃる･･･ということも度々あります。

② 学年が上がってから気がつく

一部の構音障害は「それらしい音」に聞こえるために本人や保護者も気がつかない場合があります。2 年生の九九が言いづらい，音読やスピーチで自分の滑舌の悪さが気になる等，年齢が上がってから本人が自分の話しづらさに気づく場合があります。しかし，子どもは「ことばの検査」や「通級指導教室」で構音のことを相談できたり練習できたりすることを知らないため，「自分はそういうものだ」と諦めてしまい，そのまま困難さを抱えたまま大人に･･･ということもあるのです。

構音の状態によっては通級に至らずとも教育相談ですむ場合もあります。何となく違和感があるな･･･言いづらそうにしているな･･･という場合は教育相談をおすすめします。

発音に間違えのある子どもへの対応

日常的に会話を楽しむ･･･話の内容に耳を傾け，共感しながら会話を楽しみましょう。発言が聞き取りにくかったときには「その通り，〇〇ですね」のようにゆっくりはっきり話すモデルを示してあげてください。

口や舌を動かす機会を増やす･･･ガムで風船を作る，固い物をよく噛む，笛を吹く等，唇や舌，息を調節するような機会を食事や遊びの中に盛り込むようにしましょう。

ことばへのからかいはすぐに止める･･･他の障害同様に，真似やからかいは止めさせます。練習の頑張りを認め合える環境作りに努めましょう。